



なしの木

夢と笑顔と「ありがとう」が
あふれる 長幡小学校
令和6年 1月29日
第 20号

上里の子供たちを育てる合言葉：あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃（膝つき清掃）

【校長賞】提出された冊数：246冊 1冊以上提出した児童数：81名 1月25日現在



新年を迎えたかと思えばもう2月。月日が経つのは早いものです。3日の節分、4日の立春と暦の上では“春”を迎えます。日もだんだんと長くなり、少しずつ日差しの温かさを感じるようになってきました。令和5年度も終盤に差しかかり、現学年のまとめの時期に入っていきます。健康管理に十分留意の上、2月を元気に過ごしていければと思います。

豆をまいて、鬼退治！
自分の中から追い出したい鬼はいませんか？

家庭学習の習慣

今年度、『校長賞』ということで家庭学習への取組を進めているところです。学校で学習したことを家庭でもう一度やってみることで、学習内容が定着していきます。また、学習したことをもっと発展させて、調べたり深めたりできれば、学ぶ楽しさを味わうことにもつながることでしょう。家庭学習に意欲的に取り組める児童が多くなってきていますが、なかなか家庭学習の習慣が身に付かず悩んでいる家庭もあるかと思います。現学年の学習のまとめに入っていくこの時期に家庭学習の参考となればと思い、以前、読売新聞に掲載された記事を引用します。



思春期の子育てアドバイザー道山ケイさんは、年間約 3000 組の親子の勉強をサポートしている。「最近、小中学生の子供がゲームばかりして、全く勉強しないという相談が増えている」と話す。経験上、子供が自ら勉強するようになるには、親の努力が必要と強調する。

まず、1日15分、助言なしで子供の話を聞くことを勧めている。「聞く際に親が勉強の話をすると、子供にとってストレスになる」と指摘する。「今日の体育の授業でサッカーをしたの？」「シュート決めたの、すごいね！」などとたわいのない話をし、共感することが大切だ。

次のステップは、勉強のやる気を引き出すこと。どんなことをしたら子供がやる気を出すか考えよう。小学生なら宿題をやったら御褒美でシールを与えてもいい。中学生には、テストの点数が上がったら、お小遣いをアップしたり、ゲームで遊ぶ時間を少し延長したりするなど、現実的な対価が効果的。「勉強が好きな子はほとんどいない。自然と勉強するようになるには、こうした対価も必要」という。

軌道に乗るまでは、親のサポートが必要だ。勉強の仕方が分からなかったり、分からない問題があったりすると、やる気がなくなるためだ。「手伝えることがあったら言って」と伝え、相談してきたタイミングで教えよう。

【親のできること】① 1日15分子供の話を聞く ② 勉強のやる気を引き出す。

③ 親が勉強のサポートをする。

【具体的な勉強法】① 授業中に家で復習する箇所をチェックする。

② 暗記は同じ日に2回、翌朝、その1日後もやる。

③ 机に座らなくてもできる勉強を生活に組み込む。

④ 教科書で勉強したら必ず演習問題もやる。

⑤ 間違った問題を集めたノートを作る。



運動好きな子に！

1月18日～19日に校内なわとび大会を開催しました。(右の写真) 子供たちは、自己新記録を目指して時間跳びや技能跳び(二重跳び等)に一生懸命に取り組んでいました。

なわとびは、縄と少しのスペースがあれば始められる手軽な運動ですが、様々な効用が期待できる運動でもあります。冬の時期だけでなく、年間を通して生活の中に取り入れるとよいですね。＜なわとびには、こんな効用も＞

○運動強度はランニングよりも高く、一定時間跳び続けることで体脂肪の燃焼ができる。

○なわとびは、47種類の筋肉を使う。

○上半身をまっすぐに保って跳ぶので、体幹全体を鍛えられる。

○有酸素運動のため、持続力のアップ、心肺機能のアップ、足首等の関節を強化することができる。

○リズム感や調整力を高めることができる。



入学説明会

1月23日(火)、令和6年度入学予定児童の保護者を対象とした入学説明会を開催しました。

(左の写真) 令和6年度入学予定児童は、21名です。(令和6年1月23日現在) 入学までに準備していただく学用品や、作成いただく書類等について説明いたしました。入学予定児童が、心身ともに健康な状態で、元気よく入学式(4月8日)に臨めることを職員一同、心待ちにしております。



気を伝える

「おはようございます」

「こんにちは」

「こんばんは」

「はじめまして」

なぜ、挨拶をするのか？

なぜ、挨拶を返すのか？

それは、単なるマナーではなく、お互いの「気」を確かめ合うため。

今日の体調や気合いを

小さな言葉にのせている。

人は無意識に、

その人が発する挨拶の声に

その人のあり方を重ねる。

朗らかで大きな声で挨拶をする人は、

周りの人を元気にしたい人。

鋭く短く挨拶をする人は、

目標のために一心に進みたい人。

あなたの今朝の挨拶は、

周りにどんな気を伝えただろう。(武山廣道 著『禅の言葉』